

2025 年度事業報告書

【2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで】



チア!アート
CHEER!ART

トップメッセージ

医療や福祉の現場を人の生きる力を引き出せるような環境にしたい。

そんな思いから、2017年7月にチア・アートは、歩み出しました。

9期目である2025年度は、1)医療施設等における環境改善事業として、病院やクリニックなどで、アート&デザインプロジェクトに取り組んだとともに、これまでの取り組みの振り返る一年でした。継続的なアート&デザインプロジェクトのアートコーディネートを担う筑波大学附属病院では、病院職員と教員・学生で議論する会議運営や作品展示・ワークショップなどの学生によるアート活動支援、筑波メディカルセンター病院では、アートカフェの開催や学生による院内環境リサーチの支援を行いました。こうした継続的なディレクションやコーディネート、設計のほか、医療的ケア児の家族が参画するアートプロジェクトの会場構成にも取り組んでいます。2)療養環境を支援する製品等の開発・販売事業は実施しませんでした。新理事のこれまでの実践を活かし、10期目に向けては、病院職員や障害のある方たちと協働で製作でき、患者や利用者の方々の療養生活に寄り添うツールの開発を検討しています。3)医療施設等でのアート活動の啓発・普及事業では、これまでのチア!ゼミのほか、『ざわざわ茶話会』と題したオンライン茶話会や、研究会&ワークショップも開催。よりよい療養環境を目指す多様な属性の人々が集えるプラットフォームの基盤づくりを試みました。加えて、茨城県パラアーティスト発掘・育成等事業への協力、県内の広報誌やテレビ番組などのメディア掲載・出演、学会での実践報告のほか、いばらきデザインセレクションでは筑波メディカルセンター病院でのプロジェクトが受賞しました。

理事長交代後の3年目にあたり、チア・アートの意義について、再度考え続けています。来年度に向けて、これまでの活動をより多くみなさんと分かち合い、活動を続けるために、新理事のみなさんと理論づけや言語化をおこなうことから、それを本としてまとめ、出版することを考えています。これからもみなさんと生きる力となる場について考えていきたいと思いますので、引き続き、チア・アートをご支援ください。

2026年7月

特定非営利活動法人 チア・アート

理事長 貝島桃代

1 事業の成果

2025 年度は、9 期目の活動を 4 月に開始させ、2025 年 6 月 11 日に通常総会を行いました。事業として取り組んだ主な活動を報告いたします。

2 事業の内容

(1) 医療施設等における環境改善事業

① 筑波大学附属病院アート&デザインプロジェクト アートコーディネート

筑波大学附属病院と筑波大学芸術分野との協働によるアートプロジェクトのコーディネート業務を行い、アート&デザインによる継続的な環境改善をマネジメントしました。2025 年度は、1) 病院職員と教員・学生が議論する「病院のアートを育てる会議」の運営、2) 作品展示（洋画、写真、立体造形、書など）の継続・更新、3) アートワークショップの支援、4) 病院部局が主体で行う事業へのアート分野に関する協力・支援を行いました。

- 実施期間：2025 年 4 月～2026 年 3 月
- 事業主体：国立大学法人筑波大学附属病院（茨城県つくば市）
- 協働：病院のアートを育てる会議
（筑波大学附属病院、筑波大学芸術系教員、筑波大学 adp 学生チーム アスパラガスほか学生）
- アートコーディネート：筑波大学附属病院（アートコーディネーター 吉田翼）、チア・アート（松崎仰生）
- ウェブサイト：<https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/artdesign/>



けやき棟 1 階中庭前での書道ワークショップ『一筆どうでしょう』
／企画：村嶋理子（筑波大学書領域）、コーディネート：吉田翼、チア・アート（松崎仰生）



A-C 棟 2 階渡り廊下での作品展示『みかたとかえかた』
《foliation》／制作：石毛亮太（指導教員：上浦佑太）、コーディネート：吉田翼、チア・アート（松崎仰生）

② 筑波メディカルセンター病院アート&デザインプロジェクト アートコーディネート

病院と筑波大学芸術分野との協働によるアートプロジェクトのコーディネート業務を行い、アート・デザインによる継続的な環境改善をマネジメントしました。2025年度は、学生チーム「パプリカ」が、退院される方の動線にも着目し、『「病院の入口から出口まで」のデザイン』と題した院内環境のリサーチを行いました。学生と病院スタッフとの交流会「アートカフェ」では、先述のリサーチ結果をまとめたマップ展示および学生とスタッフとの意見交換、よりよい療養環境を考える「コラージュワークショップ」を行いました。

- 実施期間：2025年4月～2026年3月
- 事業主体：公益財団法人筑波メディカルセンター（茨城県つくば市）
- 協働：筑波メディカルセンター 経営企画課 広報係、広報委員会ほか、筑波大学芸術系教員、筑波大学 adp 学生チーム パプリカほか
- アートコーディネート：チア・アート（園家悠司、富山彩乃）
- ウェブサイト：<https://www.tmch.or.jp/effort/art.html>



「病院の入口から出口までの」のデザイン／コーディネート：チア・アート（園家悠司、富山彩乃）、リサーチ：筑波大学 adp 学生チーム パプリカ（指導教員：岩田祐佳梨）



アートカフェ「ゆるっとカフェ」／企画：チア・アート（園家悠司、富山彩乃）、協働：筑波大学 adp 学生チームパプリカほか

③ なんでも相談できる医療相談所「はなそう－HANASOW－」

アートディレクション・アートコーディネート

産業保健事務所として地域の法人を支える機能を持ちながら、医療をとりまくことや病院では話しにくいことなど、なんでも相談できる医療相談所「はなそう」のアートコーディネートを行いました。

- 実施期間：2025 年 4 月～2025 年 7 月（2025 年 9 月に閉所。現在は事務所兼私設図書館として運営）
- 事業主体：合同会社メビウスメディカル なんでも相談できる医療相談所「はなそう」（茨城県水戸市）
- アートコーディネート：チア・アート（松崎仰生、園家悠司）

④ 南越谷内科クリニック アートディレクション・設計

「地域ケア」の実践の場としての活用も想定し、2024 年度に待合スペースを改修した南越谷内科クリニックにて、新たに本棚の設置を目指し、アートディレクションおよび設計を行っています。

- 実施期間：2026 年 1 月～
- 事業主体：医療法人南越谷内科クリニック（埼玉県越谷市）
- 設計：チア・アート（岩田祐佳梨、園家悠司）

⑤ ケアとクィアネスが交差するアートプロジェクト

『ドゥーリアのボールルーム』 会場設計

医療的ケア児の家族が参画し、ケアとクィアネスが交差するアートプロジェクト『ドゥーリアのボールルーム』にて、展示やパフォーマンスの舞台としての機能と同時に、車椅子での鑑賞を考慮したゆとりある動線や、誰でも利用できるカームダウンスペースを取り入れた会場を設計。誰もが安心して居合わせられる場を目指しました。

- 実施期間：2026 年 1 月～（会期：2026 年 6 月 10 日～28 日）
- 事業主体：アートセンター BUG（運営：株式会社リクルートホールディングス）（東京都千代田区）
- 企画：も／MO
- 会場設計：チア・アート（岩田祐佳梨、園家悠司）

(2) 療養生活を支援する製品等の開発・販売事業

今年度は実施しませんでした。10期目に向けて、稲葉新理事による「おくすり手帳」のなど他実践の知見を踏まえ、病院職員や障害のある方たちと協働で製作でき、患者や利用者の方々の療養生活に寄り添うツール開発を検討しています。

(3) 医療施設等でのアート活動の啓発・普及事業

① 医療とアートを考える勉強会「チア！ゼミ」 企画運営

チア！ゼミは、医療福祉従事者、クリエイター、地域の人々、患者さんやその家族、学生などさまざまな背景をもつ人たちが集まり、参加者同士の対話によって、医療や福祉におけるアート・デザインの考えを深める勉強会です。実践者や当事者の方による話題提供後、参加者同士で対話しながら、異なる視点や考えを共有します。2025年度は、特別編として、筑波メディカルセンターでのICU家族控室改修プロジェクトの報告会を開催。加えて、医療や福祉における悩みや葛藤をざっくばらんに共有し、アートやデザインの視点から、よりよいケアの環境づくりにつながるアイデアを見つけ、育てていく茶話会「ざわざわ茶話会」も3回開催しました。よりよい療養環境づくりに関心や葛藤をもつ様々な人々が集えるプラットフォームの基盤づくりを試みました。

チア！ゼミ特別編「『患者家族が待つ空間』を考える 筑波メディカルセンター病院 ICU 家族控室改修プロジェクト報告会」

- 話題提供者：河野元嗣病院長（チア・アート理事）、田中久美副院長・看護部長、園家悠司（チア・アート）
- 実施日：2025年7月14日（月）20:00-21:00
- 場所：オンライン（zoom）
- 参加者：医療・福祉関係者、アート関係者、学生など31名



チア！ゼミ「第1回ざわざわ茶話会」

- 実施日：2025年5月19日（月）20:00-21:00
- 場所：オンライン（zoom）
- 参加者：医療・福祉関係者、アート関係者、学生など17名

チア！ゼミ「第2回ざわざわ茶話会」

- 実施日：2025年9月22日（月）20:00-21:00
- 場所：オンライン（zoom）
- 参加者：医療・福祉関係者、アート関係者、学生など17名

チア！ゼミ「第3回ざわざわ茶話会」

- 実施日：2026年1月19日（月）20:00-21:00
- 場所：オンライン（zoom）
- 参加者：医療・福祉関係者、アート関係者、学生など10名

② 研究会 & ワークショップ「医療と芸術が交わる場所」 運営

筑波大学にて、1) 話題提供者による各病院でのアートやデザイン活動の紹介、2) 話題提供者による座談会、3) 話題提供者と参加者を交えたグループでのワークショップで構成されるイベントを開催。交流を伴う体験的な学びの場の機会を通じて、全国各地の実践者や実践を目指す人々のネットワークづくりを試みました。

- 話題提供者：稲葉俊郎（慶應義塾大学大学院 SDM 特任教授、チア・アート理事）、森合音（四国こどもとおとなの医療センター アートディレクター、チア・アート理事）、岩田祐佳梨（筑波大学芸術系准教授、チア・アート副理事長）、貝島桃代（スイス連邦工科大学チューリッヒ校教授、チア・アート理事長）
- 実施日：2026年3月1日（日）14:00-16:30
- 場所：筑波大学、オンライン（zoom）
- 主催：筑波大学芸術系 岩田研究室
- 協力：チア・アート、筑波大学附属病院 病院のアートを育てる会議、筑波メディカルセンター病院
- 参加者：医療・福祉関係者、アート関係者、学生など133名（現地参加者75名、オンライン申し込み者58名）



③ 書籍『病院の場づくり—アートやデザインを通して医療環境にアプローチするための教科書—(仮)』 企画

病院におけるアートやデザインによる人間的な場づくりについて、それらの意義、進めるうえで大切にすべき指針、立ちはだかる障壁、実践手法を学べる書籍を 2027 年度に出版することを目指し、助成金獲得、出版社や執筆者との調整を行っています。

④ その他、協力事業・メディア掲載・受賞など

2025 年度は、茨城県内のメディアへの出演、アートミーツケア学会での実践報告のほか、いばらきデザインセレクションソーシャルデザイン部門知事選定などを受賞しました。

【協力事業】

・令和 7 年度 茨城県パラアーティスト発掘・育成等事業「めぐるワークショップ—表現ってなんだ？いばらきのいま—」『触れて 広がる』(9 月 28 日, 筑波大学, 講師: 宮坂慎司, 主催: 茨城県、企画運営: 特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン, 特定非営利活動法人ちいきの学校, ROKUROKURIN 合同会社, 協力: 特定非営利活動法人チア・アート)

【メディア】

・『アートやデザインで医療・福祉現場の課題に寄り添う vol. 特定非営利活動法人チア・アートさん』: つくばの市民活動ポータルサイト「くつつくば」(つくば市運営), <https://www.city.tsukuba.lg.jp/kuttsukuba/2025/27799.html>

・『ゆるっとアートカフェ』: ウィークリー ACCS (放送日 12 月 8 日~12 月 14 日), <https://youtu.be/QKMxglRrWaM?si=SxH23dym54UEW711>

・『はじめてのアート~心と身体を整える、新しい一歩~』『アートが紡ぐ、医療とケアの新しいカタチ』: 小美玉市文化情報誌「おみた magazine」(小美玉市運営) 2026 年 3 月号, <https://www.city.omitama.lg.jp/manage/contents/upload/69c4820b9b057.pdf>

【学会発表】

・松崎仰生、岩田祐佳梨 (筑波大学芸術系、チア・アート): 実践報告「病院のアートコーディネーターの役割に関する考察—大学附属病院と大学芸術分野との協働によるアート活動を事例として—」, アートミーツケア学会 2025 「『ふくし』と『ま』」(あさかホスピタル), 2025 年 9 月 20 日~21 日, <https://artmeetscare.org/2025/05/31/2025fukushima/>

・園家悠司、富山彩乃 (チア・アート)、岩田祐佳梨 (チア・アート筑波大学芸術系)、窪田蔵人、遠藤友宏、池井宏代、古谷亜津子 (筑波メディカルセンター病院): 実践報告「患者家族に寄り添う待合空間—筑波メディカルセンター病院 ICU 家族控室改修プロジェクト—」, アートミーツケア学会 2025 「『ふくし』と『ま』」(あさかホスピタル), 2025 年 9 月 20 日~21 日, <https://artmeetscare.org/2025/05/31/2025fukushima/>

【受賞】

・筑波メディカルセンター病院「ICU 家族控室改修プロジェクト」: いばらきデザインセレクション 2025 知事選定 ソーシャルデザイン部門, <https://id-selection.jp/index.php?QBlog-20260109-5>

・筑波メディカルセンター病院「ICU 家族控室改修プロジェクト」プレスリリース: プレスリリースアワード 2025 Best101, https://prtimes.jp/pressreleaseawards/2025/best101/best101_092/

チア・アートへのご支援 ありがとうございました

(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日決算)

経常収益	(単位千円)
会費	332
寄付	0
補助金／助成金	0
事業収益	6,914
その他収益	8
合計	7,254

経常支出	(単位千円)
事業費	497
管理費	5,764
合計	6,261

2025 年度 特定非営利活動法人チア・アート 役員

理事長 貝島 桃代 / スイス連邦工科大学チューリッヒ校 教授

副理事長 岩田 祐佳梨 / 筑波大学芸術系 准教授

理事 平松 祐司 / 筑波大学附属病院 病院長

河野 元嗣 / 筑波メディカルセンター病院 病院長

稲葉 俊郎 / 慶應義塾大学大学院 SDM 特任教授

田中 佐代子 / 筑波大学芸術系長 教授

小山 慎一 / 筑波大学芸術系 教授

森 合音 / 四国こどもとおとなの医療センター 専属ホスピタルアートディレクター

監事 山中 敏正 / 筑波大学教育推進部 特命教授

2025 年度 新役員の紹介

理事 稲葉 俊郎

医師、医学博士。2004 年東京大学医学部卒業。東京大学医学部附属病院循環器内科助教（2014 年～ 2020 年）、軽井沢病院（2022 ～ 2024 年病院長）を経て、2024 年より慶應義塾大学大学院 SDM 特任教授。山形ビエンナーレ 2020, 2022, 2024 芸術監督。医療と他分野に橋を架ける実践に関わる。著書多数。

<メッセージ>

私は医学生時代から「いのちを呼びさます場」に興味を持ってきました。医療現場では効率や合理化が求められる中で、全体性を取り戻し、自分らしくあるための手段として芸術が果たす役割は大きいと思います。医療には「病気学」だけではなく「健康学」が必要で、健康になるために芸術は何をできるでしょうか。医療の枠内にこだわらず、より自由で創造的になれる新しい場づくりに取り組んでいきたいです。



理事 森 合音

1995 年大阪芸術大学写真学科卒業。2013 年の開院時より四国こどもとおとなの医療センター専属ホスピタルアートディレクター。特定非営利活動法人アーツプロジェクト理事長、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館理事、アートミーツケア学会理事、宝塚大学看護学部客員准教授。

<メッセージ>

医療は進歩し続け、多くの命を救済できるようになりました。でも、病院という場所にはまだまだたくさんの目に見えない「痛み」があります。その「痛み」を共に受け止め、快復させる力が、アートにはあると信じてきました。医療とアートがお互いの垣根を越え、対話を重ねていく先に、「新しい病院のカたち」が見えてくると思います。チア・アートのメンバーとして皆さんと一緒にその可能性を探っていきたいです。

